

# 同志社大学

## 2008年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2009年3月2日提出

所 属	職 名	氏 名
法学部	教授	梅津 實
研 究 題 目	イギリス議会制度研究	
研 究 成 果 の 概 要	<p>2008年3月に出版した『政治腐敗からの再生』(共編著)では、イギリス下院議員におけるカネと政治の関係をとりあげたが、つづいて前年度に終了したブレア政権の総括をおこなった。これはブレア政権の政策パフォーマンスを、国内問題(貧困者対策など)から対外的な政策遂行(イラク戦争など)にわたり分析したものであり、過去10数年におよぶイギリス政治の全体像を、これで再構成したつもりである。この研究は「ブレア政治10年の意義」『同志社法学』第60巻第2号2008年7月となって公開された。</p> <p>その後、研究をイギリス上院における投票行動とその意味するもの(政策決定にたいする影響力)に転じ、資料収集に努めるとともに、それらの読破につとめた。これについての成果はまだ公開されていない。しかし、その概略の一端については、久留米大学の招待による講演会(「二院制か一院制かーイギリス議会の経験を通して」、アクロス福岡久留米大学サテライト教室、2009年1月30日)で一般市民にむけ開陳した。いずれ、もう少し内容を煮詰め、学術論文として公にするつもりである。</p>	